

仁

義

礼

信

学校教育で活用できる

論語章句集

〔改訂版〕

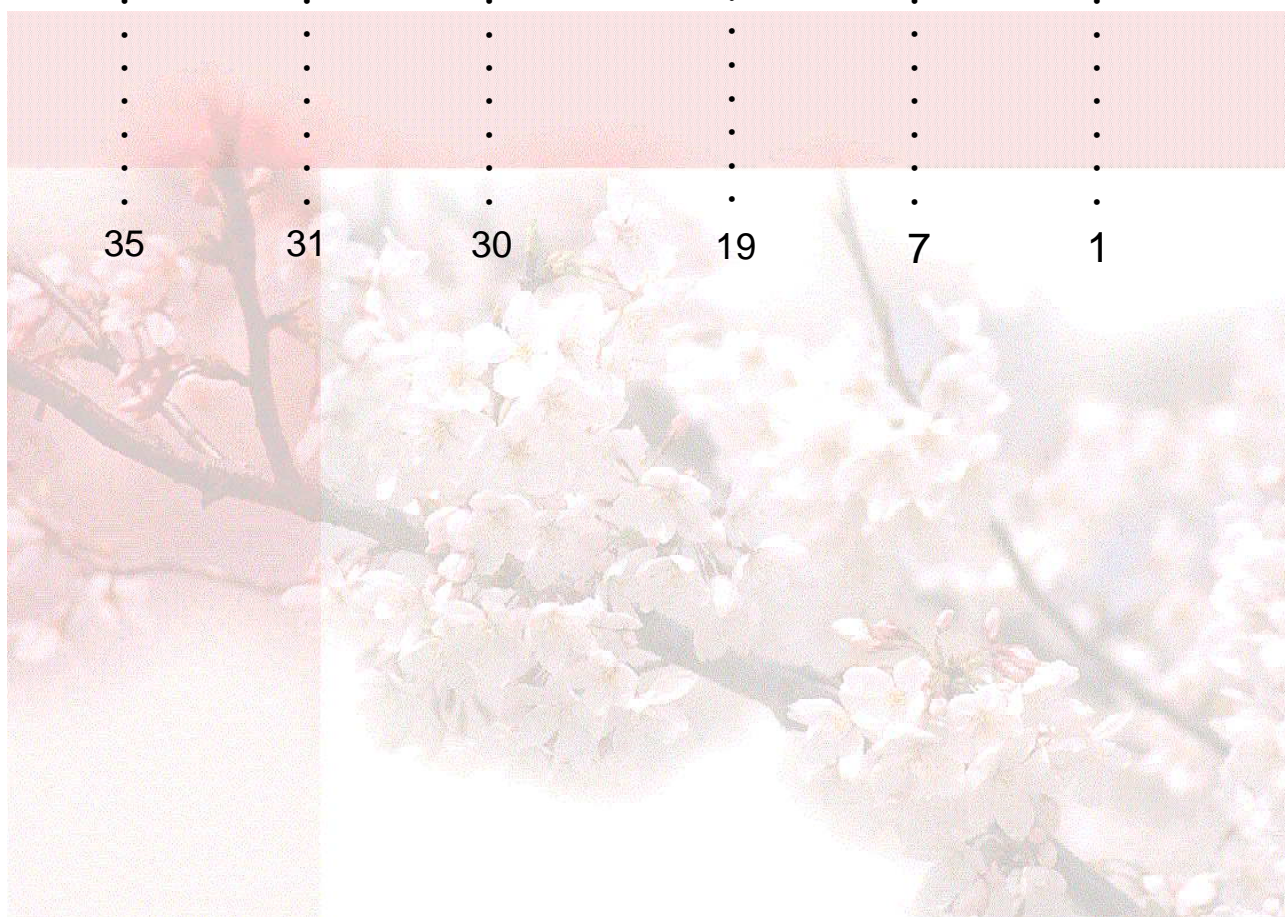
知

岡山県教育委員会



# 目次

一	はじめに	1
二	章句集	7
三	カリキュラム ①活用場面 ②具体的な指導場面と章句	19
四	参考図書	30
五	章句一覧	31
六	おわりに	35



# 一 はじめに

## 岡山県の教育のシンボル 旧閑谷学校

岡山県の特別史跡 旧閑谷学校は、江戸時代に建てられた、庶民を中心とした学問所です。国宝の講堂をはじめ、ほとんどの建造物が国の重要文化財に指定されています。

当時、武士の師弟が学ぶ藩校は岡山市内にありましたが、二つ目の藩直営の学校である旧閑谷学校は、最初から身分に関係なく地方のリーダーを育てる学校として、藩を越えて学びたい人が集い学ぶ目的で建てられました。旧閑谷学校の目指した教育は、純粋な「人づくり」で、教育の中心に置かれたものが論語であり、「この谷に論誦の声の絶えないように」という思いは、今も受け継がれています。

現在、岡山県青少年教育センター閑谷学校では、講堂において「講堂学習」が行われています。本物に触れ、伝統を感じながら論語を論誦する体験は、論語の章句を知るだけではなく、論語に対する興味・関心を高め、論語学習に対する意欲を向上させることが期待できます。



## 岡山県出身の総理大臣 犬養毅（木堂）

備中国庭瀬（現在の岡山市北区川入）出身の犬養毅は、明治二十三年に三十六歳で衆議院議員に初当選し、以後、憲政擁護運動の先頭に立ち、尾崎行雄とともに、「憲政の神様」と言われました。



昭和六年十二月、七十六歳のとき第二十九代内閣総理大臣に任命され、満州事変の解決にあたりましたが、翌年の五月十五日、首相官邸において海軍青年将校らに襲われ、「話せばわかる」の言葉を最後に没しました（五・一五事件）。

毅という名は、父が論語の「士は以て弘毅ならざるべからず」から、木堂という号は同じく「剛毅木訥は仁に近し」から名付けたと言われています。

また、娘である道子に「恕」を教訓として与えています。その書において、「自分は貧窮困苦のうちで成長し、世の辛酸と人の心の移り変わりを知って人となった。だから、他人に対しても、あの頃の自分の境遇にあったならばと、思いやられずにいられない。どんな時でも思いやりを持つ人になれ、恕す（ゆるす）心を忘れるな。」と記しています。

このように、本県においても論語のもつ魅力は大きな影響を与えていると言えます。

## 「論語」とは

論語は、今から約二千五百年ほど前の中国の人物である孔子の言葉を中心とする言行録（言ったことと行ったことの記録）で、世界中で最も多くの人に読まれてきた書物の一つです。二十篇からなる内容のほとんどが短いことばの集まりで、配列の順序にも格別の意味がないと言われています。

江戸時代、幕府が認めた正式な学問である「朱子学」の重要なテキストとして使用されました。「仁」「義」「礼」「知」「信」などの徳目を、単文からなる独特なリズムで表しており、それぞれの言葉に込められたものは、時を経ても決して古くさくなく、含蓄の深い内容です。

そして、語られている内容のほとんどは道徳的なものですが、決して徳目を押し付けるのではなく、学びへの意欲を高めたり、社会の中での自分の在り方や生き方について考えたりするためのヒントとなるものと言えます。

## なぜ、論語なのか

今の子どもたちやこれから誕生する子どもたちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は、厳しい挑戦の時代を迎えていると予想されます。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく変化し、子どもたちが就くことになる職業の在り方についても、現在とは様変わりすることになるだろうと指摘されています。また、成熟社会を迎えた我が国が、個人と

社会の豊かさを追求していくためには、一人一人の多様性を原動力とし、新たな価値を生み出していくことが必要となります。

我が国の将来を担う子どもたちには、こうした変化を乗り越え、伝統や文化に立脚し、高い志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力を身に付けることが求められます。

そのためには、一人一人が互いを認め合い、尊重し合いながら自己実現を図り、幸福な人生を送れるようにするとともに、より良い社会を築いていくことができるよう、人と人々が健全につながり合うことがますます重要になっています。人と人が健全につながり合い、快適な生活を過ごすためには、規範意識や人間としての在り方や生き方の意識、人間関係構築力等、子どもたちが身に付けておくべき大切なことがたくさんあります。

スムーズな人間関係を築く時や、年長者、同輩、年少者とそれぞれに合わせてどう関わっていけばよいのかを考えていく時の智恵やヒントが、論語には簡潔に集約されており、そこが論語の魅力と言えます。自分がよければそれでよいというものではなく、社会全体がよくあることが望ましいという、普遍的・通年的に使えることが書かれています。

また、論語は、発達段階によって、解釈が違ってくることも大きな特徴です。発達・成長の過程によって解釈が深まります。子どもは子どもの視点で、大人は大人の視点で、同じ論語を読み、意見や思いを交流することができ、学校だけでなく、家庭・地域における共通の話題にもなり得るでしょう。

## 論語を取り入れるポイント

論語は、黙読するだけではなく、声に出して音読、群読等をするのに向いています。しかし、そこで留意すべきこととして、発達段階を考慮することが挙げられます。

### 就学前教育では

遊びや生活の中で、唱えやすい論語を繰り返しクラスや園等で使うことが大切です。意味は理解することができなくても、友だちと一緒に唱えることを楽しむことで、耳から論語の章句に慣れ、論語を身近に感じるようになるようになります。

つまり「巧言令色 鮮なし仁」や「行くに徑に由らず」等、短く・リズムカルな章句を選び、唱えることが適していると言えます。

### 小学校低学年では

※素読を中心に、少々難解な章句であっても、より多くの論語に触れさせることで、身体に覚えこませていきます。「今日の論語」などを決めて、学級全体で声に出して読んだり、「論語カルタ」等を活用したりすることで、論語が身近にある環境を構成します。また、素読を繰り返すことで、論語のもつリズム感や歯切れのよさ、古典としての美しさや伝統的な言い回しに触れることができますようになります。

※素読：文章の意義の理解はさておいて、まず文字だけを声を立てて読むこと。漢文

学習の初歩とされた。

### 小学校の中学年以降では

素読を行うことで、徐々に論語に慣れ章句を覚えていきます。そのとき、教師が子どもに意味も合わせて伝えていくことが大切になります。

例えば、「其れ恕か。己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ」という章句を扱う場合、素読させると同時に「人にとって大切なものの一つとして『恕』、つまり、相手を思いやる心があり、自分が望まないことは人にしてはいけないという意味だよ。」など、意味や解釈を加えていくことで、今すぐには意味が分からないかもしれないけれども、初心者であってもきちんと論語の世界に入っていけるようになります。

### 中学校では

国語の授業で身に付けた力を用いて、論語を読み解けるようになるとともに、徐々に論語の意味も理解できるようになってきます。多くの論語に触れることで、日々の生活の様々な場面において、自らの経験と論語の教えを対比して捉えることができるようになります。自分の生活を振り返ることができます。

例えば、はじめの傍観者に対して「義を見て為ざるは、勇なきなり」の章句を取り上げ、自分の行動を振り返らせるなどの指導が考えられます。



## 高等学校では

多様な経験を積むことに伴い、論語を自主的に且つ多様に解釈できるようになります。この経験という土台を基にすることで、解釈が深まると言え、座右の銘となるような論語の章句に出会えると言えます。

例えば、論語の章句の意味と自分の経験との関連性を明らかにし、他の人に伝えるというような活動が考えられます。

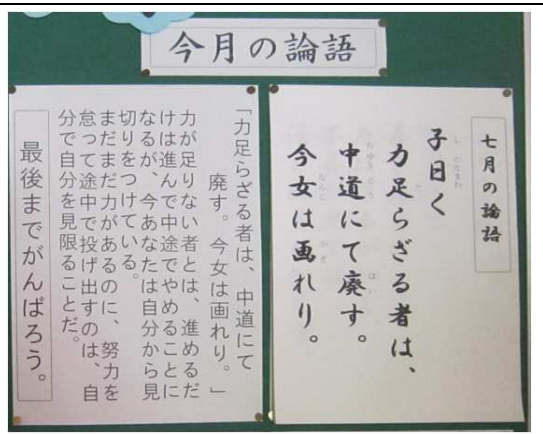
## 発達段階に応じながら

このように、まずは論語に慣れるために、章句を唱えるところからはじめ、発達段階に即して、徐々に意味を理解し、自分を振り返りつつ行動につなげ、実践していくような気運を学校全体で醸成していくことが大切です。

これからの時代を生きていく子どもたちが、論語を、人生の節目節目に読み返すことで、自己の成長を感じることができ、目標とする在り方や生き方を腑に落ちる感じで提示してもらった気分になることができるのではないのでしょうか。これこそが、論語が読み継がれてきた理由の一つであるといえます。そのためにも、全ての子どもが論語に触れる機会を設け、自らの在り方や生き方のヒントの一つとなるよう、論語のよさを味わわせることが大切です。

また、全員で論語を唱える時などに、はっきりと大きな声で読むことを意識させることで、自然と発声や姿勢等も良くなってきました。さらに、気運を高めるために、朝の会や学校通信等で論語を紹介したり、校内に章句を掲示したりするなど、環境面を整備することも効果的です。

平成十八年に改正された教育基本法では、教育の目標に「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する」という項目が新たに追加されました。自分たちの住んでいる岡山県を今以上に愛するために、岡山県の歴史・文化・伝統のすばらしさを子どもたちが再確認する一つの方法が旧閑谷学校や犬養毅に関係の深い論語を学ぶことではないでしょうか。



### 備前市立三国小学校

校長が選定した「今月の論語」を学級に掲示し、毎日常朝の会で声を揃えて章句を唱えています。



### 矢掛町立小田小学校

自分の一番好きな章句を選び、暗唱したり、章句の意味を解説したりして、伝え合います。

## 【幼稚園】



帰りの会を利用して短い時間で、子どもたちと一緒に論語を唱える時間を作ります。短く、リズムカルな章句を選び、友だちと一緒に論語を唱えることで、論語を身近に感じています。

言葉の意味が分からない章句もありますが、「言葉遊び」として覚えて、友だちと一緒に唱えることを楽しむ姿が見られ、言葉に対する興味をもたせることにもつながります。

## 【小学校】



異学年交流活動の縦割り班遊びの中に、「論語かるた」を取り入れます。読み手を高学年が務め、ある程度継続的に活動することで、「難しい言葉だな」と思う低学年の子どもも、慣れるにつれてカードが取れるようになり、「おもしろかった」「またやりたい」などの感想を抱きます。

また、日直が選んだ論語を日直の素読に続けて、クラス全員が声を合わせ、数回読み上げるようにします。その後、教師が論語の意味を伝えることで、論語に対して親しみがわきます。

【中学校】



学級通信等を利用して、担任の思いや願い等を伝えるときにも論語の章句が活用できます。生徒の活動や行動を取り上げる時に、論語の章句とともに解説を付けて伝えることで、論語の教えと自分たちの活動等が対比できるようになり、自らの生活を振り返ることもつながります。

【高等学校】



中学生に対して「論語」や「孔子」について、自分たちが学んだことをゲストティーチャーとして伝える活動を行います。親しみが持てるように、提示の仕方を工夫したり、経験を踏まえ、生徒なりの解釈で、章句の意味や解釈を伝えたりすることで、中学生は「孔子の教えが分かって良かった。」という感想を抱き、これにより高校生は充実感を覚えます。

これらの経験を通して、自らの座右の銘となる章句にも出会え、よりよい生き方を追求する姿勢にもつながります。



## 二 章句集

論語の章句は、いろいろな場面で使え、使い方も一通りとは限りません。ここには、その中の一つの例を示しています。学校や子どもたちの実態や目的、その時の状況等に応じて取り入れ、学校の方針等に沿った展開を工夫してください。

### ◇◆ 思いやりの心 ◆◇

〔出典…金谷治翻訳「論語」〕 ※現代仮名遣いによる

伝えたいこと	章句	意味 (○) ・ 解説 (●)	活用場面例
<p>周りの人を 好きになろう</p>	<p>① 仁を問う。子曰く、人を愛す。 (顔淵篇)</p>	<p>○ 仁のことをお訊ねすると、先生は「人を愛することだ」と言われた。 ● 簡潔明瞭。思いやりとは「人を愛すること」である。 ● 「仁」という字は、「人」に「二」で、人が二人からできている。親と子、兄と弟、姉と妹、あるいは兄と妹、おじいちゃんや孫、友達と自分。人間社会は、人と人で成り立っている。最小単位の二人が仲良くする、お互いを思いやり愛することだ。そのことが最も大切なことだ。</p>	<p>始業式 入学式 学級活動 学級活動 学級活動 学級活動</p>
<p>思いやりの心を もとう</p>	<p>② 其れ恕か。己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ。 (衛霊公篇)</p>	<p>○ (弟子が先生に尋ねた。「ひとことだけで一生行っていくけるということがあるでしょうか」) それは、「恕(思いやり)」である。自分の望まないことは、人にしむけないことだ。 ● 人を思いやる心、それが「恕」である。</p>	<p>始業式 入学式 学級活動 学級活動</p>
<p>本当の 思いやりとは</p>	<p>③ 巧言令色、鮮なし仁。 (学而篇)</p>	<p>○ 言葉上手の顔よしでは、ほとんどないものだ、仁の徳は。 ● 他人(ひと)に対しては、誠実に振る舞うことが思いやりというものだ。</p>	<p>朝会 学級活動</p>

<p>真の姿が 見えるのは</p>	<p>周りの人をもって</p>
<p>④ 歳寒くして、然る後に松柏の彫むに遅るることを知る。 (子罕篇)</p>	<p>⑤ 己に克ちて礼に復るを仁と為す。 (顔淵篇)</p>
<p>○ 気候が寒くなつてから、はじめて松や柏が散らないで残ることが分かる。 ● いざという時になつて、はじめてその人の真の姿が分かるものだ。友達が困っている時に手をさしのべてあげられるかな？</p>	<p>○ 我が身を慎んで礼の規範に立ち戻るのが「仁」ということだ。 ● わがままな心に打ち勝つて、まわりの人々を敬い大切に、謙譲の気持ちをもって立ち居振る舞いに心をくだく。そういう地道な実践の繰り返し「仁」へとつながるものだ。</p>
<p>集団宿泊活動</p>	<p>朝会 学級活動</p>

◇◆自己にかかわること(学ぶこと)◆◇

<p>伝えたいこと</p>	<p>「学ぶ」ということ</p>
<p>章句</p>	<p>⑥ 学んで思わざれば則ち罔し。思うて学ばざれば則ち殆うし。 (為政篇)</p>
<p>意味(○)・解説(●)</p>	<p>○ 学んでも考えなければ、ものごとにははっきりしない。考えても学ばなければ、独断におちいつて危険である。 ● 学ぶことと学んだことをしっかりと考え、分からない点があれば質問したり調べたりすることによって学力は身につく。いくら考えることが大切であるといつても、授業をしつかり受けた本を讀んだりして学ぶことをしなければ、独断に落ちて学力は身につかないものだ。</p>
<p>活用場面例</p>	<p>教科オリエンテーション 学年最初の授業</p>

<p>常に学び 続けよう</p>	<p>⑦ 故きを温ねて新しきを知る、 以て師と為るべし。 (為政篇)</p>	<p>○古いことに習熟してさらに新しいこともわきまえてゆくなら、人の師となれる。 ●過去の出来事や先人の話を謙虚に学びとり、その真実を会得することから、今に生かすべき新しい価値を発見することができる。</p>	<p>開校記念式典 社会見学</p>
----------------------	--	--	------------------------

◆◆自己にかかわること(学ぶこと)◆◆

<p>伝えたいこと</p>	<p>章 句</p>	<p>意味(○)・解説(●)</p>	<p>活用場面例</p>
<p>学んだことを 活かそう</p>	<p>⑧ 博く文を学びて、これを約するに礼を以てせば、亦た以て畔かざるべきか。 (雍也篇)</p>	<p>○幅広く書物を読んで、それを礼の実践でひきしめていくなら、道にそむかないでおれるだろう。 ●たかさんのことを学んで、それを自分の言動に出せるようになること、きまりを守り、人に迷惑をかけずにいられる。</p>	<p>遠足 社会見学 修学旅行</p>
<p>自分のために 学ぼう</p>	<p>⑨ 古の学者は己の為にし、 今の学者は人の為にす。 (憲問篇)</p>	<p>○むかしの学んだ人は自分の修養のためにした。このごろの学ぶ人は人に知られたいためにする。 ●誰のためでもない、自分のために学ぶのである。自分を向上させるために学ぶことが楽しいものだ。</p>	<p>始業式 教科オリエンテーション 学級活動</p>
<p>もっているものを 活かそう</p>	<p>⑩ 質、文に勝てば則ち野。文、質に勝てば則ち史。文質彬彬と</p>	<p>○質朴さが装飾よりも強ければ野人であるし、装飾が質朴さよりも強ければ文書係りである。装飾と質朴とがうまくとけあってこそ、はじめて君子だ。</p>	<p>修了式 卒業式 立志式</p>

	<p>とにかく がんばってみよう</p>	<p>好きこそものの 上手なれ</p>	<p>学ぶことは 嬉しいこと</p>
<p>⑪ して然る後に君子なり。 (雍也篇)</p>	<p>⑪ 性、相い近し。習えば、相い遠し。 (陽貨篇)</p>	<p>⑫ これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず。 (雍也篇)</p>	<p>⑬ 学びて時にこれを習う、亦た説ばしからずや。朋あり、遠方より来たる、亦た樂しからずや。 (学而篇)</p>
<p>● もって生まれた素朴さと身につけた教養の両者のバランスがとれて、はじめてできた人だといえる。 ● 生まれたときの素直さや素朴さを忘れないで、努力して教養を積んでいくことが大切である。</p>	<p>○ 生まれつきは似かよっているが、しつけや習慣、教養でへだたる。 ● 人の生まれつきはよく似ていても、その後のみんなの学習いかんで大きな違いが出てくる。 ● 努力するかもしれないが、自分の人生が変わるのだったら、一つががんばってみたいものだ。</p>	<p>○ 知っているというのには好むのには及ばない。好むというのには楽しむのには及ばない。 ● 勉強でもスポーツでも、それを好きになることがまず上達の第一歩。それが好きになったら、さらに、それをするのが楽しくなれば最高である。 ● 勉強が楽しくなることは難しいかもしれないが、知らないことが分かる喜びを重ねることによって、勉強も楽しんでできるようになるものだ。</p>	<p>○ 学んでは適当な時期におさらいをする、いかにも心嬉しいことだ。だれか友だちが遠い所からもたずねて来る、いかにも楽しいことだ。 ● 先生から学んだことを何度も繰り返し反復していると、そのたびに理解が深まって向上していくのだから心がスカッとすることじゃないか。 ● かつての友がしばらくぶりに訪れて来ると、同じ道について語り合えるから、なんとも楽しいことだ。</p>
<p>二分の一 成人式</p>	<p>学級活動 部活動</p>	<p>教科オリエンテーション 朝会 学級活動</p>	<p>各教科 学級活動 朝会</p>

◆◆ 友達にかかわること（人間関係） ◆◆

伝えたいこと	章句	意味（○）・解説（●）	活用場面例
みんなで協力しよう	⑭ 礼の用は和を貴しと為す。 （学而篇）	○礼のはたらきとしては調和が貴いのである。 ●みんなで何かに取り組むときは、みんなで協力し合うことが大切だね。一人、勝手なことをしたらチームワークも何もうなくなっちゃうよ。	学芸会 合唱 コンクール
いろいろな人と友達になろう	⑮ 君子は周して比せず、小人は比して周せず。 （為政篇）	○君子は広く親しんで一部の人におもねることはないが、小人は一部でおもねり合って広く親しまない。 ●特定の人とベタベタ付き合うのではなく、できるだけ多くの人と付き合うことを心がけることである。	学級活動

◆◆ 友達にかかわること（人間関係） ◆◆

伝えたいこと	章句	意味（○）・解説（●）	活用場面例
自分勝手はよくないよ	⑯ 利に放りて行なえば、怨み多し。 （里仁篇）	○利益ばかりにもたれて行動していると、怨まれることが多い。 ●自分勝手なことばかりしていたら、みんなから見捨てられることになる。	学級活動 委員会活動
自分から進んでできる人になろう	⑰ 徳は孤ならず、必ず隣あり。 （里仁篇）	○道徳のある者は孤立しない。きっと親しい仲間ができる。 ●これは良いことと分かっているけど、なかなか一歩を踏み出して行動に移せないことがある。しかし、勇気を出して一歩を踏み出してみるのだ。決し	学級活動 委員会活動

<p>周りの友達から 教えられること は多い</p>	<p>友達を つくるときに 大切なこと</p>	<p>本当の友達を 作ろう</p>	
<p>⑳ 我三人行えば必らず我が師を得。其の善き者を択びてこれに従う。其の善からざる者にしてこれを改む。 (述而篇)</p>	<p>㉑ 君子は和して同ぜず、小人は同じて和せず。 (子路篇)</p>	<p>㉒ 益者三友、損者三友、直きを友とし、諒を友とし、多聞を友とするは、益なり。 (季氏篇)</p>	
<p>○ 三人で行動したら、きつとそこに自分の師を見つ けられる。善い人を選んでそれに見ならい、善く ない人にはその善くないことをわが身について直 すからだ。 ● 自分の周りの人はすべて自分の先生であると言っ てよい。 ● 友達はすべて自分にはないとところをもっているの で、よいところを見つけて、それを見習うように すればよい。</p>	<p>○ 君子は人と調和するが雷同はしない。小人は雷同 するが調和はしない。 ● 友達同士お互いに意見が違っても、意見の違 いを乗り越えて理解をすることが大切である。例 えば、意見が違えばお互いに非難をし合い、意見 が同じであれば馴れ合いになるような友人関係は よくない。 ● これは、友人関係にも言えるし、国と国との関係 についても、同じことが言えるように思う。</p>	<p>○ 有益な友だちが三種、有害な友だちが三種。正直 な人を友だちにし、誠心の人を友だちにし、もの 知りを友だちにするのは、有益だ。 ● 反対に、ためにならない友達というのはどんな人 だろうね。口先だけの人、ずるい人、反対しない 人だよ。</p>	<p>て孤立するようなことはない。良いことをしてい れば、必ずその行為を理解してくれる人が現れる ものである。</p>
<p>職場体験活動 社会貢献活動</p>	<p>野外活動 集団宿泊活動 学級活動</p>	<p>学級活動</p>	

<p>友達のことを 知ろう</p>	<p>⑳ 人の己を知らざるを患えず、 人を知らざるを患うなり。 (学而篇)</p>	<p>○人が自分を知ってくれないことを気にかけないで、人を知らないことを気にかけることだ。 ●とにかく人間は、周りの人が自分を理解してくれないことに不満を抱くものであるが、自分自身が周りの人を理解していないことを反省する方が先ではないか。学校においても、周りの友達の意見にしっかりと耳を傾け、理解するように心がけることが大切である。</p>	<p>始業式 学級活動</p>
-----------------------	---	--	---------------------

◇◆こんな人間に◆◇

<p>伝えたいこと</p> <p>くじけずに 最後まで やり遂げよう</p>	<p>章句</p> <p>㉒ 譬えば山を為るが如し。 未だ一簣を成さざるも、 止むは吾が止むなり。 (子罕篇)</p>	<p>意味(○)・解説(●)</p> <p>○例えば山を作るようなもの、もう一もつことというところを完成しないのも、そのやめたのは自分がやめたのである。 ●できないことは、誰のせいでもない。自分がやるかやらないかで、できるできないが決まるのである。</p>	<p>活用場面例</p> <p>運動会 体育会</p>
--	---	--	---------------------------------

◆◆ こんな人間に ◆◆

伝えたいこと	章句	意味 (○) ・ 解説 (●)	活用場面例
最後まで がんばろう	<p>②③ 力足らざる者は、中道にして          廃す。今女は画れり。          (雍也篇)</p>	<p>○力が足りない者とは、進めるだけは進んで途中でやめることになるが、今お前は自分から見きりをつけている。          ●余力があるのに、努力を怠って途中で投げ出すのは、自分で自分を見限ることだ。</p>	<p>運動会          体育会          部活動</p>
あせらず、 粘り強く 取り組もう	<p>②④ 速かならんと欲すること母かれ。          小利を見ること母かれ。          速やかならんと欲すれば則ち          達せず。小利を見れば則ち大          事成らず。          (子路篇)</p>	<p>○早く成果をあげたいと思うな。小利に気をとられるな。早く成果をあげたいと思うと成功しないし、小利に気をとられると大事はとげられない。          ●人間はつい急ぎすぎたり目先の利益に目を奪われるりするものである。しっかりと目標を決めて、それに向かって焦らず一步一步前進することが大切である。</p>	<p>始業式          教科オリエン          テーション</p>
良いライバルを もとう	<p>②⑤ 君子は上達す、小人は下達す。          (憲問篇)</p>	<p>○君子は高尚なことに通じるが、小人は下賤なことに通じる。          ●朱に交われば赤くなるが、よい競争関係になると、お互いに切磋琢磨し、向上していく。</p>	<p>各教科</p>
失敗を成功に 結びつけよう	<p>②⑥ 君子は諸れを己に求む。          小人は諸れを人に求む。          (衛霊公篇)</p>	<p>○君子は自分に反省して求めるが、小人は他人に求める。          ●人間は失敗しても、失敗の原因をしっかりと分析し、二度と同じ間違いをしないように心がければ、失敗を成功に結びつけることができる。</p>	<p>学芸会          合唱          コンクール          委員会活動          係活動</p>



<p>善いことと 善くないことを 見分けよう</p>	<p>自信をもって 行動しよう</p>	<p>自分の言葉に 責任をもとう</p>	<p>人のよいところ を見つけよう</p>	<p>何事にも 挑戦してみよう</p>
<p>③① 善を見ては及ばざるが如くし、 不善を見ては湯を探るが如く す。 (季氏篇)</p>	<p>③① 内に省みて疚しからずんば、 夫れ何をか憂え何をか懼れん。 (顔淵篇)</p>	<p>②⑨ 君子は其の言の其の行いに過 ぐるを恥ず。 (憲問篇)</p>	<p>②⑧ 君子は人の美を成す。人の悪 を成さず。小人は是れに反す。 (顔淵篇)</p>	<p>②⑦ 如之何、如之何と曰ざる者は、 吾れ如之何ともすること 末きのみ。 (衛靈公篇)</p>
<p>○よいことを見ればとても追いつけないようにそれ に向かって努力し、よくないことを見れば熱湯に 手を入れたように急いで離脱する。 ●善いことにはドンドン取り組む。でも、善くない ことから、サッサと身を引かなくてはいけない。</p>	<p>○心に反省してやましくなければ、一体、何を心配 し何を恐れるのか。 ●自分の行動に自信と誇りがあれば、くよくよした りびくついたりすることはない。</p>	<p>○君子は、自分の言葉が実践よりも以上になること を恥とする。 ●実行もしないのに、口だけ達人な人は嫌なもの だ。</p>	<p>○君子は他人の美点をあらわしすすめて成しとげさ せ、他人の悪い点は成り立たぬようにするが、小 人はその反対だ。 ●人の美や長所を心から喜べる人物でありたいもの だ。</p>	<p>○「どうしようか、どうしようか。」と言わないよ うな者は、わたしにもどうしようもない。 ●たとえ難しくても、とにかく挑戦を試みること だ。最初からあきらめてしまうような者には、誰 も手をさしのべてくれない。失敗をおそれず、と にかく力一杯頑張ってみることだ。</p>
<p>学級活動</p>	<p>学級活動 委員会活動 係活動</p>	<p>学級活動 グループ活動</p>	<p>各教科 学級活動</p>	<p>運動会 体育会 職場体験活動 部活動</p>

◇◆こんな人間に◆◇

<p>人のことも 考えて</p>	<p>⑳ 己<small>おのれ</small>を脩<small>おさ</small>めて以<small>もつ</small>て人<small>ひと</small>を安<small>やす</small>んず。 (憲問篇)</p>	<p>○自分を修養して人を安らかにすることだ。 ●自分だけ幸せであればいいという考えを捨てて、他人のことも考えられるようになりたいものだ。</p>	<p>ボランティア 活動 社会貢献活動</p>
<p>伝えたいこと</p>	<p>章 句</p>	<p>意味 (○) ・ 解説 (●)</p>	<p>活用場面例</p>
<p>先のことを 考えて</p>	<p>⑳ 人<small>ひと</small>にして遠<small>とお</small>き慮<small>おも</small>り無<small>な</small>ければ、 必<small>かな</small>らず近<small>ちか</small>き憂<small>うれ</small>いあり。 (衛霊公篇)</p>	<p>○人として遠くまでの配慮がないようであれば、きつと身近に心配ごとが起こる。 ●先のことを考えないで、目の前のことだけを考えて行動すれば、きっと先々心配ごとが出てくるものだ。 ●先々のことを考えると、今、ちよつと我慢するこ とだって必要である。</p>	<p>集団宿泊活動 修学旅行</p>
<p>自分を 振り返ろう</p>	<p>㉑ 躬<small>み</small>自ら厚<small>あつ</small>くして薄<small>うす</small>く人<small>ひと</small>を責<small>せ</small>む れば、則<small>すなわ</small>ち怨<small>うら</small>みに遠<small>とお</small>ざかる。 (衛霊公篇)</p>	<p>○われとわが身に深く責めて、人を責めるのをゆるくしていけば、怨んだり怨まれたりから離れるものだ。 ●自分には甘く、他人には厳しくというのでは、周 りから怨まれてしまうものだ。</p>	<p>学級活動</p>
<p>自ら努力しよう</p>	<p>㉒ 人<small>ひと</small>能<small>よ</small>く道<small>みち</small>を弘<small>ひろ</small>む。 道<small>みち</small>、人<small>ひと</small>を弘<small>ひろ</small>むるに非<small>あら</small>ず。 (衛霊公篇)</p>	<p>○人間こそ道を広めることができるのだ。道が人間を広めるのではない。 ●この世の中を住みやすくしていくのは、そこに住んでいる人たちの努力にかかっている。 ●自分から取り組まないと、何事も成し遂げられない。</p>	<p>ボランティア 活動 社会貢献活動</p>

<p>ほどほどが肝心</p>	<p>正々堂々と</p>	<p>まず 人の話を聞こう</p>	<p>日々の心がけを</p>
<p>③⑥ 過ぎたるは、猶お及ばざるがごとし。 (先進篇)</p>	<p>③⑦ 行くに徑に由らず。 (雍也篇)</p>	<p>③⑧ 君子は言を以て人を挙げず、人を以て言を廃せず。 (衛霊公篇)</p>	<p>③⑨ 君子に九思あり。 視るには明を思い、聴くには聡を思い、色には温を思い、貌には恭を思い、言には忠を思い、事には敬を思い、疑わしきには問いを思い、忿り</p>
<p>○ゆきすぎたのはゆきたりないのと同じようなものだ。どちらも中庸を得ていない。 ●なにごとであれ、ほどほどっていうのが一番だ。</p>	<p>○歩くには近道をとらず、正道を歩んでいく。 ●こざかしく立ち回ることなく、堂々と生きていくこととする人の姿は、すがすがしいものだ。</p>	<p>○君子は立派なことを言ったからといって人を抜擢せず、また人によって性格が悪いからなどといった言葉をすてることはしない。 ●言葉を聞いただけでその人のことを評価してはならないし、たとえつまらないと思う人であっても、良いことを言っていれば、聞き流してはいけない。人の言うことは、まず聞いてみよう。</p>	<p>○君子には九つの思うことがある。見るときにははつきり見たいと思ひ、聞くときにはこまかく聞き取りたいと思ひ、顔つきにはおだやかでありたいと思ひ、姿にはうやうやしくありたいと思ひ、言葉には誠実でありたいと思ひ、仕事には慎重でありたいと思ひ、疑わしいことには問うことを思ひ、怒りにはあとのめんどうを思ひ、利得を前にしたときは道義を思う。 ●このうち一つでも自分の好きな言葉を選んで覚えておきたい。</p>
<p>学級活動</p>	<p>運動会 体育会 学級活動</p>	<p>学級活動 グループ活動</p>	<p>修了式 卒業式 二分の一 成人式 立志式 学級活動</p>

	勇氣のある人になろう	過ちは素直に認めよう
には難を思い、得るを見ては義を思う。 (季氏篇)	④〇 義を見て為ざるは、勇なきなり。 (為政篇)	④① 小人の過つや、必らず文る。 (子張篇)
○行ふべきことを前にしながら行わないのは、臆病ものである。ためらって決心がつかないのだから。●それが正義だと知りながら、それを実践しないというの、自己の保全、責任逃れと言われても仕方がない。真の勇者とは、正義のために立ち向かっていく人をいう。	○小人が過ちをすると、きつとつくり飾ってごまかそうとする。●過ちを取り繕ってはいけない。過ちは素直に認め、反省し改めることが大事である。	
	ボランティア活動 社会貢献活動	学級活動 グループ活動

◇◆こんな人間に◆◇

伝えたいこと	自分の一日を振り返ろう
章句	④② 吾れ日に三たび吾が身を省みる。人の為に謀りて忠ならざるか、朋友と交わりて信ならざるか、習わざるを伝うるか。 (学而篇)
意味 (○) ・ 解説 (●)	○私は毎日何度もわが身について反省する。人のために考えてあげてまごころからできなかったのではないか。友達と交際して誠実でなかったのではないか。よくおさらいもしないことを受けうりで人に教えたのではないかと。 ●毎日、自分を振り返り、反省することが大切だ。
活用場面例	帰りの会 学級活動

<p>周りの人の言葉 に惑わされない で</p>	<p>本当の過ちとは</p>	<p>相手に応じて 接し方を 考えよう</p>	<p>信頼される人 になろう</p>	<p>自分の命を 大切にしよう</p>
<p>④3 衆これを悪むも必らず察し、 衆これを好むも必らず察す。 (衛霊公篇)</p>	<p>④4 過ちて改めざる、是れを過 ちと謂う。 (衛霊公篇)</p>	<p>④5 老者はこれを安んじ、朋友は これを信じ、少者はこれを懐 けん。 (公治長篇)</p>	<p>④6 言 忠信、行 篤敬なれば、 蛮貊の邦と雖ども行なわれ ん。 (衛霊公篇)</p>	<p>④7 暴虎馮河して死して悔いなき 者は、吾れ与にせざるなり。 (述而篇)</p>
<p>○大勢が憎むときも必ず調べてみるし、大勢が好む ときも必ず調べてみて、盲従はしない。 ●周りの人の意見に惑わされるのではなく、自分の 目で確かめ、よく考え判断することが大切である。</p>	<p>○過ちをしても改めない。これを本当の過ちという のだ。 ●同じ間違いを今後決して起こさないようにと心が けることが大切である。</p>	<p>○老人には安心されるように、友達には信ぜられる ように、若者にはしたわれるようになることだ。 ●それぞれの人に応じ、ふさわしい接し方がある。</p>	<p>○ことばにまごころがあり、行いがねんごろであれ ば、野蛮な外国でさえ行なわれる。 ●言葉に誠意があつて信用でき、行いが慎み深けれ ば、信頼される人になれるだろう。</p>	<p>○虎に素手でたちむかったり河を歩いて渡ったりし て、死んでもかまわないというような無鉄砲な男 とは、私は一緒にやらないよ。 ●自分の命を大事にしないような人と一緒に何事か をしようなどとは思わないものだ。</p>
<p>学級活動 グループ活動</p>	<p>学級活動 グループ活動</p>	<p>職場体験活動 社会貢献活動</p>	<p>職場体験活動</p>	<p>学級活動 野外活動</p>

言葉の伝え方を考えよう	自分の意見を伝えるためには
<p>④8 子曰く、辞は達するのみ。 (衛霊公篇)</p>	<p>④9 子、四つを絶つ。意なく、必なく、固なく、我なし。 (子罕篇)</p>
<p>○ことばは、意味を伝えるのが第一だね。 ●相手に何かを伝えるときに発する言葉というものは、相手にその意味を十分に伝えるようにするところそ大切なのだ</p>	<p>○先生は四つのことを絶たれた。勝手な心を持たず、無理押しをせず、執着をせず、我を張らない。 ●自分の意見を受け入れてもらうには、自分勝手なことを押し通さず、全てのことを決めた通りにやろうとせず、一つのこと固執してかたくなにならず、我を張らないことが大切だ。</p>
挨拶運動 学級活動	学級活動 グループ活動

このように使えます。

例えば、クラスの中でいじめが見つかったとき…

いじめをした子どもたちに「相手の嫌がることはしてはいけな  
い」と、

『②己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ』を使って指導する。

また、そのいじめを黙って見ていた子どもたちに「正しいと思っ  
たことをしないのは、本当に勇気があるとは言えない」と、

『④0義を見て為ざるは、勇なきなり』を使って指導する。



# 三 カリキュラム

## ① 活用場面

論語は、発達段階に応じて意味や解釈等を深めていくことができます。児童生徒の実態や状況に合わせて取り入れやすいことから、チャレンジしてみましよう。幼稚園や小学校では、まず、短い章句をみんなで声を合わせて音読することからはじめましよう。

《こんな場面で使ってみましよう》 「★は、『②具体的な指導場面と章句』に掲載」

### ◇特別活動の中で◇

<p>学級活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団づくりに効果的なメッセージのある章句を用いて、どうすれば一人一人を大切にできるかじっくり考えさせる。</li> <li>★ クラス目標を設定するとき、論語の中の章句や言葉を使う。</li> <li>・ 担任の思いや担任からのメッセージを伝えるときに、論語の章句や言葉を引用する。</li> <li>★ お互いに協力したり思いやったりして、よりよい人間関係を構築するための手立てとして、論語の章句や言葉を使って説明する。</li> <li>・ 学校や社会の出来事を振り返り、「もし自分がそこにいたら、どう行動していたか」を考える活動をする。その時のよりどころとして論語の章句や言葉を活用する。</li> <li>・ 備前商工会議所制作の「論語カルタ」を活用し、学級や学年、全校等で「論語カルタ大会」を実施する。</li> <li>・ 立志式や二分の一人式等で、一つの区切りの年として、自分を見つめ、将来に思いをめぐらせる手立てとして使う。</li> </ul>
<p>児童会活動 生徒会活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ ボランティア活動や委員会活動などで、人に役立つ行動の大切さを説明するとき、論語の章句や言葉を例示として使う。</li> </ul>
<p>学校行事</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校行事後の振り返りのときに、自分の活動を振り返る視点にしたり、学校行事を通して身に付けたことを自己評価する観点に使う。</li> <li>★ 事前学習で、行事の心構えや練習への構え等の説明のときに、教師の思いや伝えたいメッセージにあう論語の章句や言葉を選んで使う。</li> <li>・ 閑谷学校での講堂学習に参加し、本物の場で本物に触れる機会を作る。</li> <li>★ 始業式、終業式での校長訓話や生徒指導担当の話の中に指導内容に合う章句を選んで使う。</li> </ul>

◇総合的な学習の時間の中で◇

探究活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞記事等を使って、社会の出来事をどう考えるか、論語の章句を基にグループで話し合わせる。論語の章句を日常生活や社会の出来事と関連づけて、論語の中と現実とのギャップを考えさせる。</li> <li>・論語の解釈を説明し、どのような場面でのような実践ができるか考えたり、論語の章句をもとに、自分の生活や行動を振り返ったりする。</li> </ul>
体験活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>★事前指導で、集団行動や公共のマナーで気をつけるべきことの説明の際、一つの材料にする。</li> <li>・事後活動で、活動を振り返る視点の例示に使ったり、今後の活動につなげたい意識や気づき、行動の説明の一つの材料にする。</li> </ul>

◇各教科の授業の中で◇

段階に応じて	<ul style="list-style-type: none"> <li>★単元や授業の導入段階、展開段階、終末・まとめの段階に応じて、それぞれの段階に適した論語の章句や言葉を紹介する。</li> </ul>
国語科で	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢を正し、発声の仕方に気をつけて、論語の音読や朗読をする。音読や朗読を通して、古典固有のリズムを味わい、論語に触れる。</li> <li>★学習と関連付けながら、論語から派生したことわざや慣用句、四字熟語の学習を発展的に学ぶ。</li> <li>・気に入った論語の章句を選び出し、「論語カルタ」を作成する。</li> <li>・音読、暗唱し、どのように解釈し、どのような場面でのように実践できるか考えてまとめる。</li> <li>★ことわざ、慣用句、四字熟語の学習で、論語から派生したものを扱い、その他についても成り立ちについて調べる。</li> </ul>
外国語科で	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語に親しむために、日本の文化や歴史について簡単に英訳して伝える。</li> <li>・論語などの身近な日本の古典を英訳してみる。</li> <li>・国際化の時代を迎えて、「思いやり」や「絆」など日本人の精神文化が世界から高く評価されており、論語の章句の意味内容を日本語の表現にとらわれず英訳してみる。</li> <li>○子曰く 学びて時にこれを習う、亦た説ばしからずや。</li> </ul> <p>Confucius said, "To learn and to review those you learned are pleasure."</p>



◇教育課程外の時間で◇

朝の時間や 帰りの時間で	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「今月の論語」を選び、全校朝会で校長がその論語についての話をし、全校児童生徒で唱える。</li> <li>・全校朝会で、「今月・今週のめあて」につながる論語の章句を紹介し、どんなところに気をつけるのか説明した後、全校児童生徒で唱える。</li> <li>・朝の会や帰りの会、シヨート・ホームルーム等で、「今月の論語」を各学級で唱える。</li> <li>・帰りの会で一日を振り返るきっかけづくりとする。</li> </ul> <p>★児童生徒の意欲向上や指導助言に論語の章句や言葉を選んで使う。</p>
朝礼で	<p>★児童生徒の生活態度や学習態度の改善のため、指導内容に合う章句を用いて、短時間で指導を行う。</p>
面談で	<p>★児童生徒との面談や進路指導で、一人一人の状態に応じて、適切な章句を用いて励ます。</p>
環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「今月の論語」を教室や校内に掲示し、児童生徒に意識付ける。</li> <li>・「今月の論語」を学校通信や学年だより等に「論語」関するコーナーを設け、家庭・地域に発信する。</li> <li>・クラス目標や「合い言葉」に論語の章句や言葉を引用し、教室に掲示して自分を振り返るよりどころにする。</li> <li>・学校図書館の蔵書に、子どもが手に取りやすいタイプの論語関連の書物を増やす。</li> </ul>

## ② 具体的な指導場面と章句

論語を活用する場面を、教師と生徒のやり取り等で例示をしていますが、あくまでも一例です。児童生徒の実態や学級の状況等に合わせて取り入れやすいことから、チャレンジしてみましよう。

### ◇ 特別活動の中で ◇ 「T…先生 C…子ども」

児童会活動	<p>○話し合いで意見が割れ、なかなか意見がまとまらない場面</p> <p>○話し合いが上手くいかず、活動が停滞しているときにアドバイスする場面</p> <p>○ボランティア活動等に取り組むに当たって、活動の意義を語る場面</p> <p>○始業式で1年間がんばってほしい目標を語る場面</p>	<p>④⑩</p> <p>③② ③⑤</p> <p>①⑨</p> <p>④⑨</p>
学級活動	<p>○年度始めの学級づくりやグループ活動の「合い言葉（目標）」を決める場面</p> <p>【指導例】</p> <p>T…君たちは、一年後、どんなクラスになっているのが理想ですか。</p> <p>C…何事にも一生懸命チャレンジするクラスがいいと思います。</p> <p>(中略)</p> <p>C…「お互いに協力し合えるクラス」がいいと思います。</p> <p>T…では、この章句集の中から、ふさわしい章句を選んで、クラス目標にしましょう。</p> <p>C…「其れ恕か。己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ。」がいいと思います。理由は…</p> <p>○班長から、班のメンバーをうまくまとめることができないと相談を受けた場面</p> <p>【指導例】</p> <p>C…班のメンバーが私の注意を聞いてくれず困っています。私に力がないのでしょうか。</p> <p>T…「徳は孤ならず。必ず隣あり。」正しいことをしていれば、孤立することはないよ。必ず、共感してくれ、支えてくれる人がいるよ。自分のしていることを信じなさい。</p>	<p>①②③④</p> <p>①⑦④②</p>

<p>体験活動</p>	<p>○職場体験活動に臨むに当たって、体験場所での態度や言動を考えさせる場面</p> <p>【指導例】</p> <p>T…皆さん方は、明日から業種は様々ですが、それぞれの職場で体験に取り組めます。</p> <p>「老者はこれを安んじ、朋友はこれを信じ、少者はこれを懐けん。」です。それぞれの立場で接する方に応じたふさわしい接し方を心がけて体験に取り組んでください。</p>
<p>◇総合的な学習の時間の中で◇</p>	<p>学校行事</p> <p>○合唱コンクールや運動会に向けて練習をしているとき、まじめに取り組めない子に向け、協力することの大切さを説く場面</p> <p>【指導例】</p> <p>T…歌詞に込められた意味を考えながら心一つにして練習に取り組んでいこうって、みんなで話し合っただよ。</p> <p>「礼の用は和を貴しと為す」だよ。協力し合う大切さを忘れて、勝手なことをしていたら、心に響くハーモニーは響かせられないよ。</p> <p>【指導例】</p> <p>T…「義を見てせざるは勇無きなり」この意味がわかるかな。「今するべきこと、すればよいと分かっているししないのは勇気がないことなのだ。」という意味です。</p> <p>朝、挨拶をした方がよいとみんな分かっているけど、なかなかできないね。これは勇気がないことなんだ。</p> <p>今年一年、勇気を出してがんばってほしいことが3つあります。</p> <p>「あいさつを元気にする」、「下駄箱の靴をそろえる」、「トイレのスリッパをそろえる」です。</p> <p>「義を見てせざるは勇無きなり」です。がんばりましょう。</p>

◇道徳の時間の中で◇

「私たちの道徳」 との関連で						導入 又は まとめ											
「私たちの道徳」 (中学校) 160ページ	「私たちの道徳」 (中学校) 102ページ	「私たちの道徳」 (中学校) 54ページ	「私たちの道徳」 (中学校) 48ページ	「私たちの道徳」 (5・6年) 28ページ	「私たちの道徳」 (3・4年) 30ページ	勇気	助け合い	努力	個性伸長	向上心	勤勉	誠実	思いやり・親切	自他の尊重・尊敬	礼儀		
						①⑦ ②⑦ ③④	①④	①① ②③	①⑩	①⑨	①⑥	①③ ②⑦ ③④	②②				
						忍耐	節度・節制	公德心	自主・自律	反省	強い意志	不撓不屈	②② ③③	②② ③③	②② ③⑧		
						③③	③③ ④⑥	③②	③① ④②	②⑥ ③② ④④	②② ③③	②② ③③	②② ③③	②② ③⑧			
						友情・信頼		国際理解	正義	明朗	思慮	①⑧ ②⑤	①⑨	①④	①⑦	①③	①⑤

◇各教科の授業の中で◇

社会科で	国語科で	各教科共通								
		終末時に	展開時に			導入時に				
○国際理解や領土問題等で、国同士の関係を語る場面	<p>【指導例】</p> <p>T…温故知新という四字熟語は論語の「故きを温ねて新しきを知る、以て師と為るべし」という章句からできたものです。論語がもたになったことわざ、慣用句、四字熟語には「一を聞いて十を知る」「不惑」「切磋琢磨」などがあります。</p> <p>T…その他のことわざ、慣用句、四字熟語の成り立ちを調べてみましょう。</p>	○ことわざ、慣用句、四字熟語を学習する時	○児童生徒に対して学習のまとめをし、振り返りを徹底させる場面	○自由研究や課題研究等、継続的な学習に粘り強く取り組むよう促す場面	○自分の考えや意見を持つとせず、他の人に簡単に同調する児童生徒に声をかける場面	○友だちの意見や発表を真剣に聞いていない児童生徒を指導する場面	○班やグループになじめず、孤立している児童生徒がいる班のメンバーに声をかける場面	○班学習などの協同的な学習に取り組んでいるとき、勝手なことをしている場面	○難問や困難な問題に直面し、あきらめ気味な児童生徒の意欲を喚起する場面	○単元や授業の導入時に、児童生徒の学習意欲を高める場面
		⑥ ③⑦	⑬ ④②	②④	④③	②① ②① ③⑧	④	⑭ ⑬⑥	②⑦	⑥ ⑦ ⑨ ⑫

◇教育課程外の時間で◇

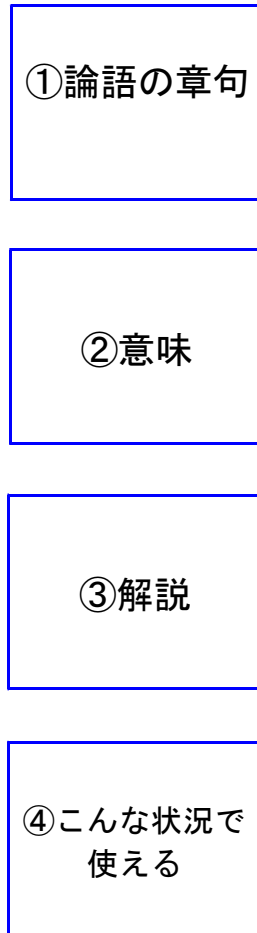
定期考査前	定期考査後	朝礼	清掃・係活動	日常生活				
<p>○定期考査に向けてのテスト週間中にも関わらず、なかなか学習への意欲が高まらない場面</p> <p>【指導例】</p> <p>T…テストが近づいてきているというのに、どうしたのかな？          どうも、勉強に集中できていないようですね。「力足らざる者は、中道にて廃す。今女は画れり。」          今まで学習してきた実力を発揮しないまま途中で勉強を投げ出すのかな。自分で自分の限界を決めず、最後まであきらめず、努力を続けてみよう。</p>	<p>○定期考査後のテスト直しを行う場面</p>	<p>○あいさつの声が小さく、元気なあいさつができていない場面</p> <p>【指導例】</p> <p>T…「辞は達するのみ」という章句が論語の中にあります。「言葉は伝わらなければ意味がない」という意味です。          T…みなさんのあいさつの声は相手に伝わっていますか。せっかくあいさつしても、下を向いて小さな声で言ったのでは相手には伝わりませんよ。気持ちよいあいさつを交わすことで、お互いの距離も縮まります。さわやかなあいさつで、気持ちを伝えましょうね。</p>	<p>○当番活動等の日々活動が活性化せず、停滞をしている場面</p>	<p>○嘘をついたことを指導する場面</p>	<p>○失敗をして落ち込んでいる児童生徒を励ます場面</p>	<p>○悪事をお互いに注意できず、見て見ぬふりをしている場面</p>	<p>○クラスにいじめがあることを発見した場面</p>	<p>○グループや友人関係の固定化が見受けられる場面</p>
<p>①②③</p>	<p>②⑥</p>	<p>④⑧</p>	<p>⑩</p>	<p>⑪</p>	<p>⑫</p>	<p>⑬</p>	<p>⑭</p>	<p>⑮</p>

面談 進路指導	
○やるべきことを途中で投げ出し、最後までやりとげられないでいる児童生徒を指導する場面	②③④
○友だちや周りの雰囲気の流れ、困難を避けている児童生徒を指導する場面	⑤
○失敗を恐れて、挑戦できないでいる児童生徒を後押しする場面	⑦
○約束したことを実行しない児童生徒を指導する場面	⑨
○スマートフォンやゲームに熱中し、勉強や運動に目が向けられていないことを指導する場面	⑩⑩⑩

《こんなことにも挑戦してみては》

◇紙芝居にする◇

一つの章句について、四枚綴りの構成に



◇寸劇にする◇

例えば、「過ちて改めざる、是れを過ちと謂う」の章句を用いて

何度も同じ失敗をする生徒がいる。このような態度を続けていると困った事態を招くことになる……  
そんな場面設定のもと、具体的な題材を用いてスキットの台本を生徒たちが作り、演じる。  
少し時間はかかるかもしれないが、文化祭や学芸会などで使える。

## 四 参考図書

(論語全体を学ぶに当たって活用できる図書)

- |                        |                       |           |
|------------------------|-----------------------|-----------|
| 「論語」                   | 金谷 治 (翻訳)             | 岩波文庫      |
| 「論語入門」                 | 井波律子著                 | 岩波新書      |
| 「世界一やさしい『論語』の授業」       | 佐久 協著                 | KKベストセラーズ |
| 「論語物語」                 | 下村湖人著                 | 講談社学術文庫   |
| 「弟子・名人伝」               | 中島 敦著                 | 角川文庫      |
| 「論語力」                  | 齋藤 孝著                 | ちくま新書     |
| 「現代語訳 論語」              | 齋藤 孝著                 | ちくま新書     |
| (発達段階に応じて児童生徒が活用できる図書) |                       |           |
| 「こども論語塾」シリーズ           | 定岡定子著                 | 明治書院      |
| 「はじめてであう論語」シリーズ        | 全国漢文学会編               | 汐文社       |
| 「閑谷学校あいうえお論語」          | 公益財団法人特別史跡旧閑谷学校顕彰保存会編 |           |
| 「声に出して読みたい論語」          | 齋藤 孝著                 | 草思社       |
| 「尾木ママと読む子どもの論語」        | 尾木直樹著                 | 学研教育出版    |
| 「高校生が感動した論語」           | 佐久 協著                 | 祥伝社       |

等々



# 五章句一覽

〈出典…金谷治翻訳「論語」〉

<p>① 樊遲、仁を問う。子曰わく、人を愛す。知を問う。子曰わく、人を知る。樊遲未だ達せず。子曰わく、直きを挙げて諸れを枉れるに錯けば、能く枉れる者をして直からしめん。樊遲退きて子夏に見えて曰わく、嚮に吾れ夫子に見えて知を問う、子曰わく、直きを挙げて諸れを枉れるに錯けば、能く枉れる者をして直からしめんと。何の謂いぞや。子夏曰わく、富めるかな、是の言や。舜、天下を有ち、衆に選んで臯陶を挙げしかば、不仁者は遠ざかれり。湯、天下を有ち、衆に選んで伊尹を挙げしかば、不仁者は遠ざかれり。(顔淵第十二)</p>	<p>② 子貢問うて曰わく、一言にして以て終身これを行うべき者ありや。子曰わく、其れ恕か。己のれの欲せざる所、人に施すこと勿かれ。(衛靈公第十五)</p>	<p>③ 子曰わく、巧言令色、鮮なし仁。(学而第一)</p>	<p>④ 子曰わく、歳寒くして、然る後に松柏の彫むに後るることを知る。(子罕第九)</p>	<p>⑤ 顔淵、仁を問う。子曰わく、己れを克めて礼に復るを仁と為す。一日己れを克めて礼に復れば、天下仁に帰す。仁を為すこと己れに由る。而して人に由らんや。顔淵曰わく、請う、其の目を問わん。子曰わく、礼に非ざれば視ること勿かれ、礼に非ざれば聴くこと勿かれ、礼に非ざれば言うこと勿かれ、礼に非ざれば動くこと勿かれ。顔淵曰わく、回、不敏なりと雖ども、請う、斯の語を事とせん。(顔淵第十二)</p>	<p>⑥ 子曰わく、学んで思わざれば則ち罔し。思うて学ばざれば則ち殆うし。(為政第二)</p>	<p>⑦ 子曰わく、故きを温めて新しきを知る、以て師と為るべし。(為政第二)</p>	<p>⑧ 子曰わく、君子、博く文を学びて、これを約するに礼を以てせば、亦た以て畔かざるべきか。(雍也第六)</p>	<p>⑨ 子曰わく、古の学者は己れの為にし、今の学者は人の為にす。(憲問第十四)</p>	<p>⑩ 子曰わく、質、文に勝てば則ち野。文、質に勝てば則ち史。文質彬彬として然る後に君子なり。(雍也第六)</p>	<p>⑪ 子曰わく、性、相い近し。習えば、相い遠し。(陽貨第十七)</p>
--	---	--------------------------------	---	---	---	--	---	--	--	---------------------------------------

<p>⑫ 子曰わく、これを<u>知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを樂しむ者に如かず。</u>（雍也第六）</p>	<p>⑬ 子曰わく、<u>学びて時にこれを習う、亦た説ばしからずや。朋あり、遠方より來たる、亦樂しからずや。</u>人知らずして慍みず、亦た君子ならずや。（学而第一）</p>	<p>⑭ 有子曰わく、<u>礼の用は和を貴しと為す。</u>先王の道も斯れを美と為す。小大これに由るも行なわれざる所あり。和を知りて和すれども、礼を以てこれを節せざれば、亦た行なわれず。（学而第一）</p>	<p>⑮ 子曰わく、<u>君子は周して比せず、小人は比して周せず。</u>（為政第二）</p>	<p>⑯ 子曰わく、<u>利に放りて行なえば、怨み多し。</u>（里仁第四）</p>	<p>⑰ 子曰わく、<u>徳は孤ならず。必らず鄰あり。</u>（里仁第四）</p>	<p>⑱ 孔子曰わく、<u>益者三友。損者三友。直きを友とし、諒を友とし、多聞を友とするは、益なり。</u>便辟を友とし、善柔を友とし、便佞を友とするは損なり。（述而第七）</p>	<p>⑲ 子曰わく、<u>君子は和して同せず。小人は同じて和せず。</u>（子路第十三）</p>	<p>⑳ 子曰わく、<u>我三人行なえば必ず我が師を得。其の善き者を択びてこれに従う。其の善からざる者にしてこれを改む。</u>（述而第七）</p>	<p>㉑ 子曰わく、<u>人の己れを知らざることを患えず、人を知らざることを患う。</u>（学而第一）</p>	<p>㉒ 子曰わく、<u>譬えば山を為るが如し。未だ一簣を成さざるも、止むは吾が止むなり。</u>譬えば地を平らかにするが如し。一簣を覆すと雖ども、進むは吾が往くなり。（子罕第九）</p>	<p>㉓ 冉求曰わく、子の道を説ばざるに非ず。力足らざればなり。子曰わく、<u>力足らざる者は中道にして廢す。今女は画れり。</u>（雍也第六）</p>	<p>㉔ 子夏、莒父の宰と為りて、政を問う。子曰わく、<u>速やかならんと欲すること母かれ。小利を見ること母かれ。速かならんと欲すれば則ち達せず。小利を見れば則ち大事成らず。</u>（子路第十三）</p>
--	---	---	---	--	---	--	--	--	---	--	--	--

<p>②5 子曰わく、君子は上達す。小人は下達す。(憲問第十四)</p>	<p>②6 子曰わく、君子は諸れを己れに求む。小人は諸れを人に求む。(衛霊公第十五)</p>	<p>②7 子曰わく、如之何、如之何と曰わざる者は、吾れ如之何ともすること末きのみ。(衛霊公第十五)</p>	<p>②8 子曰わく、君子は人の美を成す。人の悪を成さず。小人は是れに反す。(顔淵第十二)</p>	<p>②9 子曰わく、君子は其の言の其の行に過ぐるを恥ず。(憲問第十四)</p>	<p>③0 司馬牛、君子を問う。子曰わく、君子は憂えず、懼れず、曰わく、憂えず、懼れず、斯れこれを君子と謂うべきか。子曰わく、内に省みて疚しからずんば、夫れ何をか憂え何をか懼れん。(顔淵第十二)</p>	<p>③1 孔子曰わく、善を見ては及ばざるが如くし、不善を見ては湯を探るが如くす。吾れ其の人を見る、吾れ其の語を聞く。隠居して以て其の志しを求め、義を行いて以て其の道を達す。吾れ其の語を聞く、未だ其の人を見ず。(季氏第十六)</p>	<p>③2 子路、君子を問う。子曰わく、己れを脩めて以て敬す。曰わく、斯くの如きのみか。曰わく、己れを脩めて以て人を安んず。曰わく、斯くの如きのみか。曰わく、己れを脩めて以て百姓を安んず。己れを脩めて以て百姓を安んずるは、堯・舜も其れ猶お諸れを病めり。(憲問第十四)</p>	<p>③3 子曰わく、人にして遠き慮り無ければ、必らず近き憂い有り。(衛霊公第十五)</p>	<p>③4 子曰わく、躬自ら厚くして、薄く人を責むれば、則ち怨みに遠ざかる。(衛霊公第十五)</p>	<p>③5 子曰わく、人能く道を弘む。道、人を弘むるに非ず。(衛霊公第十五)</p>	<p>③6 子貢問う、師と商とは孰れか賢れる。子曰わく、師や過ぎたり、商や及ばず。曰わく、然らば則ち師は愈れるか。子曰わく、過ぎたるは猶お及ばざるがごとし。(先進第十一)</p>	<p>③7 子游、武城の宰たり。子曰わく、女、人を得たりや。曰わく、澹台滅明なる者あり、行くに徑に由らず、公事に非ざれば未だ嘗て偃の室に至らざるなり。(雍也第六)</p>
--------------------------------------	--	--	---	--	---	--	---	--	--	--	---	---

<p>③⑧ 子曰わく、君子は言を以て人を挙げず、人を以て言を廃せず。(衛霊公第十五)</p>	<p>③⑨ 孔子曰わく、君子に九思あり。視るには明を思い、聴くには聡を思い、色には温を思い、貌には恭を思い、言には忠を思い、事には敬を思い、疑わしきには問いを思い、忿には難を思い、得るを見ては義を思う。(季氏第十六)</p>	<p>④⑩ 子曰わく、其の鬼に非ずしてこれを祭るは、諂いなり。義を見て為ざるは、勇なきなり。(為政第二)</p>	<p>④⑪ 子夏曰わく、小人の過つや、必らず文る。(子張第十九)</p>	<p>④⑫ 曾子曰わく、吾れ日に三たび吾が身を省る。人の為に謀りて忠ならざるか、朋友と交わりて信ならざるか、習わざるを伝うるか。(学而第一)</p>	<p>④⑬ 子曰わく、衆これを悪むも必らず察し、衆これを好むも必らず察す。(衛霊公第十五)</p>	<p>④⑭ 子曰わく、過ちて改めざる、是れを過ちと謂う。(衛霊公第十五)</p>	<p>④⑮ 顔淵・季路待す。子曰わく、盍ぞ各々爾の志しを言わざる。子路曰わく、願わくは車馬衣裘、朋友と共にし、これを敝るとも憾み無けん。顔淵曰わく、願わくは善に伐ること無く、勞を施すこと無けん。子路曰わく、願わくは子の志しを聞かん。子曰わく、老者はこれを安んじ、朋友はこれを信じ、少者はこれを懐けん。(公冶長第五)</p>	<p>④⑯ 子張、行なわれんことを問う。子曰わく、言 忠信、行 篤敬なれば、蛮貊の邦と雖ども行なわれん。言 忠信ならず、行 篤敬ならざれば、州里と雖ども行なわれんや。立ちては則ち其の前に参するを見、輿に在りては則ち其の衡に倚るを見る。夫れ然る後に行なわれん。子張、諸れを紳に書す。(衛霊公第十五)</p>	<p>④⑰ 子、顔淵に謂いて曰わく、これを用うれば則ち行い、これを舍つれば則ち蔵る。唯だ我と爾と是れあるかな。子路曰わく、子、三軍を行なわば、則ち誰れと与にせん。子曰わく、暴虎馮河して死して悔いなき者は、吾れ与にせざるなり。必ずや事に臨みて懼れ、謀を好みて成さん者なり。(述而第七)</p>	<p>④⑱ 子曰わく、辭は達するのみ。(衛霊公第十五)</p>	<p>④⑲ 子、四を絶つ。意なく、必なく、固なく、我なし。(子罕第九)</p>
--	--	--	--------------------------------------	--	---	--	---	--	---	---------------------------------	---

## 六 おわりに

岡山県教育委員会は、平成二十五年度、人を敬う気持ちや規範意識など「心の教育」や「生き方教育」の充実を図るため論語学習研究委員会を発足させました。初年度は、論語の教えを様々な場面で活用していただけるよう、「学校教育で活用できる論語章句集」を発行し、多くの賛同を得ました。

また、今年度発行した改訂版では、岡山県の誇る教育遺産 旧閑谷学校や郷土の産んだ偉人 犬養毅を取り上げて論語学習への意義付けを図るとともに、発達段階に応じて論語学習を無理なく行えるよう、具体的な指導の場面やポイントを付け加えました。

さて、最近、以前にも増して、論語学習に対する興味・関心が高まりつつあるように思います。特に、昨年、岡山県青少年教育センター閑谷学校で実施した論語シンポジウム後のアンケート調査では、論語学習に対する肯定的な意見が多く見受けられました。論語学習とは、徳目を一方的に押しつけるものではなく、より良く生きるための知恵やヒントを学び、自らの生き方を振り返る機会となるものです。学校教育に論語を取り入れるには様々な方法がありま

す。大きな声で論語を読む、クラス目標に取り入れる、授業の導入で用いる、講話の材料にするなど多種多様です。平成二十七年年度の研究委員会では、論語の実践的な活用方法を中心に研究し、実践事例集を発行する予定にしています。一人一人の生徒がお互いを認め合い良い人間関係を築くことによって楽しく有意義な学校生活を送ることができ

る一助になればと思っております。

平成二十六年年度論語学習研究委員会委員長 國友 道一

### 論語学習研究委員会（平成二十五・二十六年度）

森	熊男	岡山大学名誉教授
國友	道一	岡山県青少年教育センター閑谷学校所長
大田	弘之	テレビせとうち株式会社取締役会長
井上	正義	倉敷市教育委員会教育長
小谷	彰吾	興讓館高等学校校長
桑野	木美	岡山県立岡山大安寺中等教育学校副校長
山本	哲	和气町立日笠小学校教頭
伊勢能	理子	備前市教育委員会学校教育課幼稚園係長
早瀬	尚子	備前市立日生東小学校指導教諭
國定	京子	和气町立和气中学校教諭
杉山	雄泰	岡山県立倉敷天城中学校教諭
福田	浩司	岡山県立和气閑谷高等学校教諭

（※ 所属・役職は研究委員会在任時のもの）

於勿不己  
人施欲所

平成二十七年三月発行

学校教育で活用できる論語章句集【改訂版】

編集兼発行所 岡山県教育庁義務教育課  
〒七〇〇―八五七〇

岡山市北区内山下二丁目四番六号

電話 〇八六一―二二六一―七五八四

電子メール gimu@pref.okayama.lg.jp